

皮膚科のトリビア

255

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●VTE診断・治療を考える会から

令和7年6月18日

災害後の静脈血栓塞栓症

2004年に発生した中越地震では、車中泊による肺塞栓症が1～7日目に多数の避難者に発生し、注目された。その後、避難所が整備され、そこに移動したあとの4～21日目にも深部静脈血栓症(deep vein thrombosis : DVT)が発生した。板張りの床での雑魚寝、トイレを我慢すること、水分制限、活動量の低下、眠剤の使用、高血圧などがDVTのリスクであった。

DVT予防には、車中泊を避けるだけでなく、簡易ベッド(B)の導入、キッチン(K)、トイレ(T)など避難所環境の改善、運動、心のケア、日常生活を取り戻す支援が必要である。中越メソッドでは、下肢静脈エコーとDダイマーの検査を行い、Dダイマーが4.0 $\mu\text{g}/\text{mL}$ 以上ならばすぐ病院を紹介、大腿静脈に血栓がある場合や、ヒラメ静脈に血栓がある、あるいはなくても静脈径が9 mm以上でDダイマーが2.0以上なら薬物療法が必要。それ以外は弾性ストッキングの使用を勧めている。

一言コメント

「肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症・肺高血圧症を1つにまとめた『肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症および肺高血圧症に関するガイドライン』が2025年に発行されている。治療の主体はこれまでのワルファリンから直接経口抗凝固薬(direct oral anticoagulant : DOAC)に代わってきているようだ。」

●某製薬会社共催認知症地域連携セミナーから

令和7年6月25日

アルツハイマー病とSNAP

アルツハイマー病(Alzheimer's disease : AD)を中心とした認知症診断の歴史と経過の中で、SNAP(suspected non-Alzheimer's disease pathophysiology)と呼ばれる一群の疾患があることが示されていた。SNAPは認知機能正常例ないし軽度認知機能障害例で、 β アミロイド陰性(A-)かつ神経変性を認める(N+)、というバイオマーカーに規定された概念である。高齢者全体の20～30%を占め、A+N+の場合よりも認知症に至るリスクが低いとされる。ADの疾患修飾薬の使用要件として、「アミロイドPET、脳脊髄液検査などにより、 β アミロイドが蓄積していることを確認すること」との記載があるので、適応外使用と判断する根拠となりうることから、SNAPという概念は有用と思われる。

一言コメント

「疾患修飾薬の登場とともに、簡便で一般臨床で利用可能なバイオマーカーの実用化が急がれているという。数年後には採血や検尿などで適応かどうかかわかるようになるのだろう。」

●第917回日本皮膚科学会東京地方会から
令和7年7月12日

頸部帯状疱疹治療中の息切れ、 何がおこったか

50歳代の女性、頸部の帯状疱疹で加療中、労作時の息切れが生じ、酸素飽和度の低下を認めた。胸部画像検査にて右横隔膜挙上を認め、右横隔神経麻痺と診断、右C3～5領域の帯状疱疹が運動麻痺をおこしたと考えた。アシクロビルの点滴に加え、ステロイドパルス療法を行い、症状は改善した。

一言コメント

「まれだが危険な合併症と考える。ステロイドパルスを要すると判断したことから、緊迫度が伝わってきた。脳神経領域と頸部の帯状疱疹は注意が必要である。」

●第917回日本皮膚科学会東京地方会から
令和7年7月12日

歯科金属除去で改善した orofacial granulomatosis

40歳代の女性、持続する右頬の紅斑の皮膚生検で、非乾酪性類上皮細胞肉芽腫の像を認めた。細菌、真菌培養は陰性。金属パッチテストでNiとPdが陽性。対側の歯科金属の除去を行ったところ、紅斑の浸潤が徐々に減り、改善した。口腔顔面肉芽腫症（orofacial granulomatosis：OFG）は臨床的には口腔粘膜や口唇および顔面に生じた肉芽腫性病変を総括した病名で、30%がCrohn病患者に伴うことが知られている。齲歯の治療とともに、金属アレルギーが確認されれば原因物質の除去を行う。トラニラスト内服はOFDに対する治療効果があると報告されている。ステロイド外用単独では奏効例が少なく、局注あるいは内服を考慮する。

一言コメント

「いかにもCrohn病の合併症としてありそうな病態だった。ただしこの症例は炎症性腸疾患はなく、歯科金属による遅延型アレルギーが原因のまれな症例。勉強になった。」

●第917回日本皮膚科学会東京地方会から
令和7年7月12日

IFAP症候群

20歳代の男性、出生時から掌蹠の紅斑と角化、頭皮の毛孔性苔癬と全頭脱毛があった。Ichthyosis follicularis, alopecia, and photophobia (IFAP) 症候群を疑った。MBTPS2遺伝子変異あり。IFAP症候群はまれなX連鎖性遺伝性疾患で、出生時から毛包性魚鱗癬・脱毛・羞明の3徴を呈する。低身長、知的障害、てんかんなどを合併することがある。治療は対症療法が中心だが、エトレチナート内服で足蹠の局面や毛孔の角化は改善がみられた。MBTPS2はコレステロール代謝と小胞体ストレス応答に関与するため、皮膚のバリア形成不全や眼脂の異常がひきおこされる。

一言コメント

「初めて聞いた。赤ちゃんの羞明は、通常は問題ないが、極端な場合はIFAP症候群のほか、小児緑内障や逆さまつげによる角膜炎などが隠れている可能性があるので、眼科受診が必要とのこと。」

●痔疾患Webライブセミナーから
令和7年8月28日

肛門診療のコツ

肛門部とその周囲の診察は通常、左側臥位（sims位）で行うのが一般的。ただし臀筋が発達した男性や太った患者は碎石位のほうが観察しやすい。碎石位は正中が明確なので、肛門病変の局在がわかりやすいという利点もあるが、腰痛のある患者では困難で羞恥心を強く感じさせるという欠点もある。血栓性外痔核、痔瘻、肛門周囲膿瘍、直腸脱、嵌頓痔核、尖圭コンジローマなどは視診で容易に診断可能。指診は示指を愛護的に根元まで挿入し、疼痛、狭窄、腫瘍、硬結、出血を確認する。示指と拇指でつまんで判断する双指診では痔瘻・膿瘍、腫瘍、直腸瘤を確認することができる。

一言コメント

「まとめて聞けて勉強になった。なかなか時間をかけられないが、必要な場合には指診も行うべきだと思った。」